

看護職員の負担軽減及び処遇の改善のとりくみについて

当院では、看護補助者を配置し、近年の高齢化の進展や疾病構造の変化・患者像の複雑化など、看護の専門性が求められることに対応するため、多職種と協働し効果的且つ効率的に看護が提供できるよう業務実施体制の整備や定期的な見直しを行うことを目標に、以下の通り取り組みを進めていきます。

項目		2026 年度(具体的な取り組み内容)
看護職員と多職種との業務分担	薬剤師	内服薬のセッティング、定期処方セットと確認
	リハビリ	日常生活動作に合わせたリハビリテーションの実施
	臨床検査技師	予定採血実施の拡大、検体回収、スピッツ等検体容器の補充
	事務	入院患者への必要書類説明 入院生活環境上の説明と対応 電話対応、メッセージ業務、ベッド移動への対応 予定入院患者来院時の対応
	放射線	撮影後の患者送迎、ベッド移動への対応、放射線検査等に関する説明
	その他	医療器械の点検・保守管理 下膳時患者の個別残滓の確認 くだもの等の提供形態の改善
看護補助者の配置		派遣採用を含め広範な採用活動を行う。看護事務導入も検討する。
		補助者業務の拡大とマニュアル整備
		看護補助者の意向調査
多様な勤務形態の導入		夜勤シフトの希望、雇用形態の選択、配置場所の考慮の実施
妊娠・子育て中の看護職員に対する配慮		活用を勧める
		夜勤免除 申請者 100%
		短時間 申請者 100%
		配置場所を考慮する
夜勤における看護業務の負担軽減		変則2交代の転換の検討
		部署間応援システムの職種拡大の検討
		夜勤配置に向け意向調査